

令和3年度 第3回堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会 議事録

日時 令和4年3月22日（火）午後2時～午後4時

場所 堺市博物館ホール

出席者 委員（5人）

和田委員長、一瀬副委員長、北口委員、中村委員、宮路委員

助言者 大阪府教育庁文化財保護課 小浜世界遺産補佐、三好企画総括主査

傍聴者 1人

- 議事
- 1 開会
  - 2 議事（1）『百舌鳥古墳群保存活用計画（案）』について
  - 3 報告（1）今年度事業の進捗状況について
  - 4 閉会

- 資料
- |       |                                  |
|-------|----------------------------------|
| 資料1   | 堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会 委員名簿          |
| 資料2-1 | 国史跡百舌鳥古墳群保存活用計画策定スケジュール          |
| 資料2-2 | 第2回堺市百舌鳥古墳群等史跡保存整備委員会の指摘事項と対応（案） |
| 資料2-3 | 国史跡百舌鳥古墳群保存活用計画（案）               |
| 資料3   | 御廟表塚古墳工事実施設計図案                   |

## 議事録

### 1 開会

#### 事務局

- ・出席委員数が定足数を満たし委員会が成立する旨の宣告
- ・配布資料の確認
- ・文化部長あいさつ

### 2 議事

#### (1)『百舌鳥古墳群保存活用計画（案）』について

##### ①前回の委員会からの主な変更点

##### 事務局説明（資料2-2）

###### 全体

- ・国指定史跡と国史跡、世界遺産と世界文化遺産が混在しているため、史跡と世界遺産に統一したうえ、使い分けは例言に定義を明記した。

###### 第2章

- ・指定年表について、長塚、収塚、塚廻、いたすけの仮指定も追加した。
- ・周辺の埋蔵文化財について、第2章の関連法規制と第7章の活用の方向性に明記した。

###### 第3章

- ・P147以降の表において史跡の本質的価値を構成要素として古墳ごとに把握する。

###### 第4章

- ・遺構の保存を前提として緑の在り方を各古墳の状況に応じて第6章にて検討する。
- ・濠水を灌漑用水として利用したことにより墳丘裾の浸食が進んだ旨をP176に加筆した。また、第6章の保存管理方針で水質とバランスをとりながら、水位を下げることを記載した。
- ・歴史資料や植生、水質など、様々な調査を行う旨を記載する。
- ・古墳はそれぞれ地域社会や地元住民の日常生活に溶け込んでいるため、来訪者だけではなく、地元住民の生活の場であることを意識した記載に修正する。タイトルを「地域住民との関わり」に修正した。
- ・様々な来訪者に配慮した整備を第8章で記載した。
- ・古墳の特徴を活かした整備について、活用整備の手法の一つとして第7・8章に記載した。

###### 第5章

- ・P216、16行目「史跡の価値とその保護」について、「保護」ではなく、「保存」に修正した。
- ・P216、32行目「古墳時代の景観を考慮して」について、「植生」に修正した。
- ・P219、31行目の善右エ門山古墳の第三種地区の説明文に、近接する史跡間の連続性確保を最優先している旨を加筆した。

## 第6章

- ・健全な傾斜木で墳丘への影響はないものについては残置し、伐採は危険木を対象とする。

## ②保存活用計画第7章について

### 一瀬副委員長

この方法（を計画に）掲げるに当たって、今までやってきた活用事例をしっかり自覚して、その活用の事例に対して、どういう反応があったのか、動きがあったのかなかったのかとか、そういうエバリュエーションをしないといけないということで、第4章の項目で要求をしたのですが、この第4章だと、ちょっと足りないかなと思ったりしています。

この保存管理計画で、指定地に関してはしっかり現状が書けていて、公有化されている範囲とかもしっかり明示されていて、植生とかも書けているので、それで、この保存管理計画の史跡指定地の把握のためのチェックシートは、公有化されているので、今後10年も変化のない、自分の土俵の中でコントロールできると思います。

そのコントロールできる分で、草刈りとかの予算措置も従来どおりでいけるという裏打ちもされていると思うのですが、活用のほうに関しては、今回の計画で掲げるのが初めてになるかと思えます。活用に類した作業、事業とかいうのは、これまで実施しているはずなので、それで、スタッフとか予算とかの裏打ちがあるのか、今後10年やっていける保証があるのかないのか。それで、それはずっと続けていた事業を、他の事業をやるために削ってもよいのではないとか、そういうエバリュエーションが必要で、そのエバリュエーションを乗り越えた結果、第7章の活用のこの方法の文章を掲げないといけないのではないかなと私は思っています。

第4章で参加人数とか、実施回数とか、そこまで突っ込んだところで、証拠をちゃんと挙げて、やっても仕方がない事業は削って、ほかに住民から要求されているような活用事項をリサーチした現状というのも第4章で記載して、それを整理した形でこの第7章の文章が起こされるべきだと思っています。

特に10年後に、保存活用計画の点検をする。最近、地域計画もそうなのですが、10年後に点検するという話をすると、もう一度、練り直す、見直すという話

を結構どこもしていると思いますが、そうすると8年目ぐらいからチェックをかけて、この計画の実現性とか、住民から望まれているものかどうかをチェックしないと（いけない）。保存活用計画をつくるのに、今、現時点で2年かかっているはずなので、そうなってくると、8年目ぐらいからそういうチェックするという、点検の仕方を次の活用計画ではしないといけないという見通しを第5章以降に掲げなければならない。

それで具体的には第6章以降は、やっぱり点検シート（が必要）。世界遺産に関わってきているので、その中で完全性と真実性という評価チェックシートも入れないといけないし、遺産影響評価がどういうふうにされて、それでそれはどういうふうに実施されていて、責任と関わる分に関してそれは達成率何%なのかとか、それは達成できないかとか、そういうのもちゃんとチェックできる具体的な内容、チェックシート作成するために、この第7章の方法での文章に私はなるのではないかと思います。

だから、まず望みたいのは、第4章をもっと具体的にちゃんとエバリュエーションできるのかどうか。それで、今後の展望を持てるような第4章に整えるのかどうかということをお願いしたいと思います。

#### 事務局

第4章の現状のところ、講演会の実施回数、参加者の数など、ここ数年の分のデータを数値で表すようにします。

#### 一瀬副委員長

住民にどう思われているのか、今現状でそういった活用的事業はどう考えられているかというのはリサーチしておかないといけないかなと思います。それは後の整備にも関わってくると思います。

登録された中で、百舌鳥古墳群の古墳をどう整備するかという時の裏づけ、世界遺産が世界ではどう思われているのか、地域ではどう思われていて、どういう整備をしたらいいのかという根拠を現状のところでリサーチしてもらわないといけないのかなとったりしています。多分10年後にはかなり活用の考え方自身も大きく変わっていくというのを前提で、そこら辺の望まれるべき活用というリサーチが第4章の中に盛り込まれてないといけないかなとったりしています。

#### 和田委員長

今、一瀬さんがおっしゃっていただいたところ、特に前半部分、実際、今やっ

るのかというのを踏まえて、新しい方針を出しているという形をきっちり出したほうがいいだろうと思いますし、堺市としての評価の仕方というか、価値観はこういうところにあるのだ、住民と一緒に思っているのだというふうなところを出しといたほうがいいでしょうね。

#### 事務局

住民の皆さんの御意見などをどういう形で反映していくのか検討します。

#### 和田委員長

世界遺産の価値観は、私は全てがいいとは限らないとは思いますが、世の中の潮流みたいなことは知っておいて、そういうのが逆に言えば評価の面でも批判の面でも両方関係してきますので、十分考慮できるような形でできればいいと思います。

#### 宮路委員

私も、一瀬副委員長がおっしゃられたことに賛成いたします。そして、4章の活用の現状を整理されていくに当たって、平成30年の基本計画では、66ページのところに、本日の資料では7章の活用の整備基本計画における活用の方向性についてのこの概念図を載せていただけたかと思えます。あるいは、平成27年の保存管理計画のこの中の224ページのところに、どのような方法・方向性で、そして役割分担で、これを進めていく計画も既に載せていただいていることかと思えます。

やはりこのような、これまでの活用に関して取り組まれてきたこと、そしてさきほど話のあったような世界遺産の価値づけのように変わっていく部分がある中で、堺市が中心になって、ほかの機関とどのように連携をするという理念の下、これまで進んできたことを整理した上でどこができていて、実際にどのような事業があって、どれぐらいの人が参加されてということ、24ページの図、あるいは本日の資料4ページの活用の方向性を埋めていくような形で現状を整理して、そして今後へと持っていくのがよいかと思いました。

あとは、平成30年のときに日常的な活用、そして非日常的な活用として史跡の価値を周知するか、関心の醸成というような形で幾つか上げていただいているものなど、このカテゴリーで整理してスタートしたものが、どのような形で実行されたのかを検証していくイメージをし、現状を整理された上で、来年度1年間で7章なども拡充されていかれるのだと思うのですが、本日の資料では、例えば非日常的な活用というものがどれぐらいあるのかを書いたり、具体的な事例として健康ウォーキングをしたり、音楽会をしたりということを書いて、細か

な一つ一つの参加者がどのような事業にどのような考え方の下で取り組まれて、そして現状がどうで、今後はどういうふうになっていくのかということ、これまでの資料を使いながら整理をしていき、共有しながら進めていくのがよいのではないかなと思います。やはり本日御提出していただいています活用の部分では、ここにまだ出てきてない部分が随分あるようにも思いましたので、その辺、進めていただければと思います。

#### 事務局

御指摘いただきましたとおり、どういう参加があって、それに対して参加された方がどういう御意見を持たれていたとか、データがあるところできちんと整理をしていきたいと思えます。

#### 北口委員

この計画を書いていくときに、堺市の百舌鳥古墳群であるとか、ガイダンス施設や博物館が出てきていますが、世界遺産ですので大きく表現してもいいのではないかなと思います。4章で、学校の社会科の教科書に必ず掲載されているというような言葉がありますけれども、そのときに、我が国最大の古墳であるとか、そういう言葉を何か入れると、もっと日本で大切な古墳だ、世界遺産としてふさわしい古墳だというようなことが通じてくるのではないかなというような気がいたします。

それと、本当に細かいことですが、博物館、ガイダンス施設ということが出ておりますけれども、地域の住民が日常的に使っている方というのは、役所の施設としまして、図書館や公民館であるとか、身近なものがもっとあるような気がするのです。そういうところで何か知らせていく、身近に感じていただく。そうすると知名度も上がって、親しみができて、保存活用にもつながっていくのではないかなというのを感じました。

#### 事務局

百舌鳥古墳群の普及啓発活動なども視野に入れながら記載していきたいと思えます。

#### 中村委員

私のほうからも先ほど一瀬先生や宮路先生のほうから4章の記述をもう少しという話がありましたので、私が思うところとしましては、日常的な活用、子供の利用ということで、なかなか古墳には入れないということですが、昔は夏休みの自由研究などで古墳を対象とした研究大会をやって、入賞者はセスナ

で古墳を見られたとか、そんなことやられていますので、すごろくを作ってやるということだけじゃなくて、他にいろいろされているということもしっかり書いていただいて、夏休みの課題や自由研究の課題として非常に小学生は活用しているということもありますので、その辺をもう少ししっかり書いていただければ、自然観察の学習であったり、写生会だけじゃなくても、もう十二分に今でもやられているということをもう少し書いていただければ分かりやすいのかなと思います。

それとあとサイクリング、レンタサイクルですかね、こういったものを使うというのは非常に僕もいいなと思いましたけども、ただ、高齢の方とかということに関しましては、やはり周遊のバスみたいなものを運用するのもいいのかなと思っています。事前にお話をしましたら、なかなかそういったバスなどは利用が困難だとかということもお聞きしまして、そういったことも何が問題なのか、やはり定期的にやるのは採算が取れないとか、いろいろとあるみたいですけども、そういったところでレンタサイクルというのは、堺市の古墳があるのは非常に地形が特徴的な、低いところと高いところの中間に造られていると思いますので、そういった地形を見るという意味ではレンタサイクルはいいと思うのです。

高齢の方とかは、高いところから低いところへ下りるようなうまいルートをつくれば、それもいいのかなと思いますけれども、やはりレンタサイクルも難しいという方もいらっしゃるかと思いますので、その辺はバスがあるかなと思います。ですので、そういったところで今までやられたことなどありましたら問題点をこの4章のところ、さらに、うまくいったこととうまくいかないところ、課題を明確にしていいただければ、それを参考にもう少し、今後どんなことを注意していけば、具体的に実装できるかということも考えられるかと思いますので、そういったことを丁寧に書いていけば、しっかりとしたデータになるかなと思いますので、私のほうからもお願いしたいと思います。

## 事務局

レンタサイクルだけでなく、そういう路線バスの活用もあるとか、ただ、そういう困難があるというところも含めて、第4章に現状を記載させていただきたいと思います。

## 一瀬副委員長

各委員のお話聞いていて思ったのですが、今までやった一覧表を上げていただくということは、そのイベントとかの体験ができなかった、そういうのをやっていることを知らなかった団体とか市民の皆さんが、その一覧を見て、僕らもや

りたい、私たちもやりたいというふうな活用アイデア一覧表になるようなものに第4章がなったらいいのかなと思います。そこら辺の意見が逆に次の点検にもつながってくるような、どういうのが人気あるのかとか、把握もできるかなと思います。

あと、宮路委員もおっしゃっていたのですが、この第7章の実施できる担保、スタッフとか予算など、そういうのもちゃんと見据えた上で、その裏も取りながらエバリュエーション点検しようとする、目的とゴールというのが必ず要るので、それがないと点検の尺度にならないので、その項目についての達成度とか、そういう複層的な基準の達成度も意識して、今後の方法と、あと細かいところの点検シートとかも作成していただきたいなと思います。

事務局

ありがとうございます。

和田委員長

僕もちょっと皆さんの御意見をお聞きしていたら思ったのですが、1つは、世界遺産は3と4の普遍的価値というのを中心に評価されていますけれども、実際の遺跡はもっと豊かなものですよね。だから、百舌鳥古墳群を周辺遺跡も含めて、先ほどの修正のところで書くということでしたので、こういう古墳群があるからには、それを支えるようないろんな活動、昔の人の活動がいっぱいあったわけで、その功績がいっぱい残っているはずですよ。だから、遺跡の価値がもう決まってしまったわけじゃなくて、いろいろこれから研究や、いろんなものを通じて、価値をつくり出していくというような姿勢で書いてもらったほうがいいなという感じが強いですね。

その1つの中には、大仙公園を中心としたすごい緑が大都市周辺に広がっているわけですので、これは中村先生のほうがよく御存じかと思いますが、それなりの自然にしても何にしましても、1つの生態地みたいなものもできているわけで、遺跡の生態系と自然の生態系が、今度の価値の中に入ってくるようなやつなのだろうと思うのです。だから、そういう点を考えていただければありがたいと思います。

もう一つは、ほかにも古墳群を持って、史跡の整備をやっている古墳群ってあるわけですね。この前、和歌山のほうとシンポジウムをされましたけれども、そのシンポジウムだけではなくて、いろんな遺跡を持っているところと関連をしながら、そういう遺跡を全国巡って歩くようなものがあるといいわけですよ。ほかのところではやっているようなので、そういうところとのネットワークみたいなのも一緒に考えてもらったらありがたいかなと思います。



もう一つは、観光の気球事業のことは、ここではあまり触れてないですね。あれは1年で消えるわけではなくて、末永くやりたいという希望があるのだから入れてもいいのではないかなというふうに思うのですけれども。

#### 事務局

他の古墳群とのネットワークや大阪府下の史跡の古墳があるところと連携したり、その関連の講座を開催している点も現状と課題のところに書きたいと思います。

気球はもちろん1年限りとかではなくて、我々は継続して気球運航を目指しております。気球はいろんな方に乗っていただき、実際に古墳のすばらしさを体感していただくために事業運行を進めておりますので、そういったところで気球のことをきちんと記載します。

#### 和田委員長

もう一つ。いろんな活動を積極的にやりましようと言ったら、ボランティアの人の充実もそうですけれども、実際、職員の人をもっと増やしてもいいだろうと僕は思うのですけども。皆さん何かスーパーマン的活躍しないと解決しないというような方針を出したら損するわという気になってしまいますのでね、自分の首を絞めているような感じに。当然やっぱりそれだけの人的な裏づけを役所の中でしてもらえるような書き方をしていただければ。

#### 事務局

世界遺産課だけでなく、文化財課や博物館の学芸課の学芸員とも連携しているような活動をしている旨も記載します。

#### 一瀬副委員長

それと前回お伺いしたときに言っていたのですが、結局、この活用の中に養成とか、そういう仕事を盛り込んでいかないと息が続かない、跡継ぎが出ないなという気がします。

特に役所なので、この活用計画を書いた後に、次の活用計画を練り直したときには全然違う担当者が次の計画をやっていると思うので、本質的にはそういう跡継ぎができて、着実に保存活用を継承されるというのも活用の仕事の一部かなと思いますので、そういうプランニングもお願いしたいなと思います。

## ②保存活用計画第8章について

和田委員長

世界遺産の関係で、今年度からずっとモニタリングしているものがありますよね。どういう点でどういう整備をするかというのは遺産影響評価の手法の1つでしょう。そういうものを既にやっていますよというのは示してよいのではないのでしょうか。それぞれの古墳で、どういう角度から写真を毎年撮っているかとか。

事務局

包括保存管理計画に基づいて、きちんと保護されていますよというところを確認するためにモニタリングを行っておりまして、今後、百舌鳥古墳群で何か史跡整備をするときは、モニタリングとはまた別に遺産影響評価をしっかりと実施していきます。

一瀬副委員長

先ほどの活用と同じことを繰り返し述べることになると思うので、第3節のところの整備の現状は、今のモニタリングと被ってもいいので、書いていくべきではないかなと思いますね。

それと、その年に何回草刈りやっているのかとかいうのも、僕はある種、整備だと思っているので、どれぐらい徹底したら程よく古墳の墳丘が透かして見られるのかとかいう検証も、この整備の項目でやるべきかなと思ったりしています。

今日（会場へ来る前に）歩いていると、孫太夫山古墳とかすごく段築が分かりやすく、大仙公園から見るとちょっと俯瞰的に見えるので、周濠の前方後円形になった輪郭も見られたりするので、そういう状況というのが後、夏になっても続いていたりすると、大仙公園へ行ったときに、ちゃんと前方後円墳で段築も見えるぞというような状態が続いていると、私は、一番何よりもの整備になっているのではないかなと思うのですけれどね。変に復元整備するよりも、常に墳丘の現状が細かく見られるという画の維持というのも大切だと思います。

それと、整備基本計画が出ていますが、これがどう達成されているのか、どういう不具合があって計画どおりに進んでいないのかというのも、整備の現状でチェックすべき事柄かなと思っています。

あと、やっぱり解説板が世界遺産のフォーマットであります。それだけだとやっぱり不十分だという話も前回も出ていて、3次元化した解説物とか、増設とかいうのもありましたが、さきほど話を聞いていて、安満遺跡の公園で、透明のガラス板に安満宮山古墳というのが、ここから見たら、安満宮山は森に覆われて

いるけれど、ここにあるぞという絵の案内板みたいなのも作っているの、ここから見ると、仁徳、履中がちゃんと見えるぞとか、古墳群で古墳が並んでいるのが見えるとか、そういう解説ガイダンスというのが大仙公園の至るところにちりばめて大仙公園を周遊する気になるような整備というのも重要なことだったりしているの、そのようなアイデアと整備を行うような見通しがあるのであれば、そういったことも細かく書いていただけるとうれしいなと思ったりしています。

#### 宮路委員

やはり4章とどうしても関わってくるかと思うのですが、ユニバーサルデザインの推進という部分について少しお聞かせいただいた上で御質問させていただけたらと思うのですが、今、ユニバーサルデザインも重視していただいて、多言語対応なども、今日の資料にもおつけくださっています。英語だけでなく、ほかの言語などで説明や解説板でしたり、資料などもお進めいただいていることと思います。

ユニバーサルデザインについて、やはり9ページにまさに方向性という話になるかと思うのですが、例えば解説板で言えばユニバーサルデザインのフォントをお使いになるであったり、点訳をされるであったりというような部分を今後、それは市としてになるのか、あるいは、この委員会としてなるのか分かりませんが、どのようなといいますか、あるいは進めていくのだろうかと思うのですが、その辺りの現状のことをお聞きしたいと思います。

あるいは古墳の前、整備のときにもお話あったかと思いますが、車椅子の方へのガイダンス施設であったり、周辺を回るときの配慮についてというような辺りの、そこはあまりまだこれから、これまでも取り組んできたというか、これからは取り組むということは書いてくださっているかと思うのですが、もちろん書いてしまうと、やらなければならない部分もあるかもしれませんが、少しお聞かせいただければと思います。現状でしたり、あるいは今後の何か方向性といいますか、お聞かせいただければと思います。

#### 事務局

ユニバーサルデザインの現状ですが、解説板のフォントや色調、UDのフォントまではまだ使えてないのではないかと考えております。

また、個々の古墳を見学いただくときの配慮というのはまだ十分ではないと考えております。

今現在、整備工事、これから着手しようとしている御廟表塚古墳ですけれども、これも車椅子の方も、そうでない方も同じところまで行けるような整備という

ところで、一番墳丘に近いところまで平坦な道を整備したりとか、そういったところの配慮はしております。

点訳とかまでは、全く着手できていないというのが現状になります。

ユニバーサルデザインはどこまで入るか分からないですけども、今週末に行う古墳公開では、基本、普通に墳丘登っていただくとは思っていますが、やはり御高齢の方とか、杖を使われているような方も来られるというところもありまして、仮設の階段を設置して行おうと思っています。ただ、この週末、日曜日に地元の方限定に先行してやりましたところ、やはりかなり年配の方も、階段もかなりステップの低い階段にしましたら、結構御高齢の方にも好評でしたので、そういうような配慮がユニバーサルデザインの第一歩なのかなと思っています。

ですので、今後もこういうイベントするときとか、いろんな方に安全に古墳に親しんでもらえるような仕掛けを常に考える必要があるかと思っています。

#### 一瀬副委員長

北海道の縄文遺跡では、雪で埋もれてしまうので、解説板とか立てず、イベントのときだけ解説板立てていたりもするので、そういう移動性、可動性のあるサインというののもいろいろ考えたら良いのかなと思ったりしています。

#### 中村委員

活用のための施設整備というところですけども、先ほどの7章とも関連するかと思うのですけれど、一瀬先生が透明な説明板ということで、ちょっとイメージができなかったのですけれども、多分そういったものを、現場に行かないと多分見られないということですよ。そのような、僕もフィールドワークとかやっていると、博物館で見るというのも非常にコンパクトでいろんな情報が見られるという意味で、コストパフォーマンスは高くていいと思うのです。

やはり古墳の前で、その実物を見ながら、そこでどうなっていたかということを知るということも非常に重要なことだと思っていて、そういった意味では、ICTとか、ネットの情報なども使って、世界中から古墳の、この博物館の中身のことも知って、興味を持って、それで来ていただくということも非常に重要なことだと思います。

やはり堺市に実際に世界の方が来てもらって、この古墳を見ながらどんなものがあるか、現地で見たいなというところはちょっとあります。そのような意味で、先ほどの透明なものというの、その場所へ行って、実際にその周りの景色であったり、いろんな情報を見ながら、現地で体感していただくというのが重要なことだと思っていますので、そういった意味では古墳からの景観のつ

ながりといった、現地へ行かないとみられないものがあるといいかなと思います。

今回の御廟表塚って、ああいったところも登りましたら、多分、二上山が見えたのかなと思いますけれども、ほかの古墳もちょっと見えたりとかということで、その現場へ行って見られることであったり。

あとは、先ほども7章のところにもありましたけども、調査・研究の活用ということで、発掘調査の報告書だったり、そういったものがデータベースに上げられて、誰でも見られるようにという話もありましたけども、全体見られるじゃなくて、どこかの古墳の発掘された資料、そういったものの写真であったり、そういったものが、その古墳へ行ったら、どこかのサーバーへ繋がって、現場に行った人だけが見られるような、そのようなものをちょっと何か作っていただいて、世界中からアクセスできるというものじゃなくて、そこに行った人だけが見られるものがあればよいのではないかなと思います。

例えば、長塚古墳に何か出てきたものとかというのがありましたら、その画像であったりとか、そういったものを長塚古墳に行った人だけが見られるような、簡単に言えばQRコードみたいに飛んでいくものであったりとか、何かその情報をほかの人にはあげられないように、それが流れていったら世界中、どこからでも見られるという問題だと思いますので、行った人だけにメリットがある。

そういったことでどんどんと世界の人、日本の各地の人も塚に来ていただくといった、そのようなICTを活用しながら、現場で詳細な情報を得られていくようなものをちょっと考えていただきたいなというのがあります。

とりあえずそれをお願いしたいと思います。

#### 和田委員長

これからIT機器を使ったものがどんどん進化していくでしょうから、作っていただくのもそうですけども、問題は絶えず更新していけるかです。大体、日本だったらいいものを作ったとしても、10年ぐらいたったら時代遅れになっていく場合が多いので、どんどん変えていけるような形がいいでしょうけども、いろいろ工夫していただけたらと思います。

#### 事務局

現地ならではというところですか、これ見るために現地に行かなくてはと思っていただけるような、そういう仕組みづくり、何か魅力的なコンテンツをやはり考える必要があるなと思いました。

#### 北口委員

整備するときに、個々の特性を生かした多様な古墳の姿を整備するというこ  
とは本当に基本ですけれども、その基本とはちょっと別になるかもしれないの  
ですが、それを守ってきた人々であるとか、どういう形でここまで来たのかとい  
うふうなこともどこかで分かるような形になっていると、非常に親しみが持て  
て、活用、整備になっていくのではないかなという気がいたします。

本当にどれだけ書くか、何を書くかというのはちょっと難しいかもしれない  
のですけれども、地域とのつながり、人々とのつながりみたいなものも表せると  
いいなと感じております。

#### 事務局

その点は、今実際進めております御廟表塚古墳の整備で、2枚の解説版の、内  
1枚は古墳そのものの解説を、もう1枚は筒井家住宅の役割や古墳が守られて  
きた経緯を示そうと考えております。

#### 和田委員長

それでは今日の検討で、活用計画の第7章、第8章というのについて、いろい  
ろ御意見いただきましたけども、また委員の方々から出た意見を踏まえて、また  
修正していただいたらありがたいと思います。これはもう継続的にずっと点検  
していくという形で。

それでは、これで一応議論は終わらせていただきまして、次の報告のほうへ話  
を進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。

### 3 報告

#### (1) 令和3年度事業の進捗状況について

- ・事務局より、御廟表塚古墳の整備に関する進捗について報告した。
- ・令和3年度は、長塚古墳・塚廻古墳・文珠塚古墳・御廟表塚古墳・黒姫山古墳  
の高木伐採を実施したことを報告した。

### 4 閉会

- ・次回開催時期をお知らせした。